

サービスをとおして声かけをし、ふれあいサロンなどの地域の住民が集う場づくりへの協力等々、地域福祉の奥行きを深さを再確認した一年でした。

地域の福祉は社協とともに

小椋清之助副会長 自治会別懇談会で、未来の我が地域の高齢化の状況を目のあたりにした。今こそ自分の地域の福祉をどうするか一人ひとりが自分のこととして考え行動し、支え合う時である。「地域の福祉は社協とともに！」をモットーに。



地域循環型の募金という考え方

清水滋子理事 昨年は不況にも拘わらず募金活動に多大のご協力いただきありがとうございました。ここで大変興味を持った他市の地域循環型募金の取り組みについてご紹介いたします。その内容とは、地域住民が小地域で福祉活動を行い、活動資金を自らの手で集め自らが使うというのです。そこでは押し付けや慣例に捕らわれず独創的な事業展開を図ることができ、もって社会福祉に貢献しようという考え方です。そんな時代がやって来たと思います。



官民一体でコミュニティバスを

森本都規夫理事 市民の生活の足となるべき神姫バスは、赤字路線を廃止ではなく休止というかたちで運行を取りやめています。そのツケは行政へ、そして社協への業務委託となっていますが、この際、財政のことも考慮しながら小手先ではなく福祉コミュニティバスの運行を官民一体で考えてはどうでしょうか。



ますます重要な社協の役割

森井正躬副会長 百年に一度と言われる金融危機、雇用不安、今年も大変な年となりそうです。そうした中、少子高齢化はゆるぎなく進んでおり、社協の果たす役割がますます重要となっております。何分限られた財源の福祉団体ですので、市民の皆様のより一層のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



移送サービスの改善策を

金本幹雄理事 昨今の移送サービス事業は、市補助金を入れても三百四十八万円の経費赤字の状態です。この改善策は、市に山間地を巡回する乗り物の配備を願うとともに社協が行う移送サービスの費用の見直しを



図る等に対応しなければならいと感じています。

社協をもっと知ってほしい

中村和美理事 少子高齢化が益々進んでいくと、地域福祉を推進する社協は私たちにとって必要不可欠な存在です。社協職員の仕事に対する熱意やお年寄りに対する思いやり、気配り、その姿勢には感心させられます。そんな社協を市民の皆様にもっと知ってほしいと思います。



宍粟は減私奉公精神のある人のまち

西林長太郎理事 宍粟は、緑、清流、景観加えて人情あふれるまちです。その一例として、他市町に劣らぬボランティアグループ数、社協の一般会費および賛助会費、善意銀行など募金収入の多さが挙げられます。ここは減私奉公精神ある人々のまちです。これをさらに向上させたい。



寄附金が支える「ささえあい活動」

平岡千恵子理事 社会貢献をしたいが、時間がない方へお願いします。福祉行政で予算化できることには限度があります。きめ細かなささえあい活動は、その地域で支えるしくみが必要です。そのための資金は、善意ある皆様の寄附が不可欠です。

